

令和6年7月18日

末野原地域会議
会長 深津 貴彦 様

豊田市長 太田 稔彦

検討結果報告書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第2項の規定に基づき諮問し、答申を受けたことについて、下記のとおり報告します。

記

- 1 報告事項 令和5年12月20日に末野原地域会議から受けた「『(仮称)ミライ構想』のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造」に関する答申についての検討結果は別紙のとおり
- 2 主管課名 企画政策部 企画課、都市計画課

末野原地域会議からの答申に対する検討結果

1	答申内容	「(仮称) ミライ構想」のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方について ・第9次豊田市総合計画（以下9総）策定の指針として、変化の激しい社会に対応するため「(仮称) ミライ構想」を羅針盤として位置づけ、変化に対応し施策の見直しを行いながらまちづくりを進めることについては賛同できます。しかしながら、「(仮称) ミライ構想」について説明する言葉が抽象的で、全体像が捉えにくいように感じました。 特に、将来都市像として掲げる「つながる つくる 暮らし楽しむ まち・とよた」は、具体的な未来の生活イメージを思い描くことが難しいと感じました。 また、“暮らし楽しむ”は、“安心安全”が前提にあると考えますので、その前提が読み取れる表現や説明になるとよいのではないのでしょうか。 行政と市民が同じ将来像を思い描くことが目標達成に向けて重要であると考えますので、市民がイメージしやすい言葉で「将来像＝めざす姿」を示す工夫が必要です。 ・(仮称) ミライ実現戦略2030の方向性（素案）では、横断的な目標の中に“高齢者”が含まれていません。今後、少子高齢化が進む中で、高齢者への取組は欠かせない重要な課題です。第8次豊田市総合計画の後期実践計画では超高齢化社会への適応が重点施策となっていましたので、9総の実践計画ではさらなる取組を期待します。
---	------	---

	市の考え	表現については、市民の皆様が理解しやすい説明や表現を工夫していきます。計画自体についても、市民の皆様にとって分かりやすい計画とするとともに、手に取りやすい図書となるよう工夫していくほか、動画など様々な媒体を活用しながら、まちづくりの方向性を市民の皆様と共有していく考えです。 なお、将来像については時代が変わっても大切にしたい姿として掲げるとともに、子どもを含め誰もが共有できる言葉で示すことを意識しており、「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」を継承することを考えています。 また、「安全・安心」については、今後5年間で特に注力する取組の方向性をとりまとめる「（仮称）ミライ実現戦略2030」において、取組方針「ともにミライにつながるまちをつくる」の考え方として、「こどもたちにとって安全・安心で持続可能なまちの基盤をつくる」として、取組の前提として示していきたいと考えています。 ・「高齢者」の視点については、第8次豊田市総合計画において、2025年問題への対応を含め「超高齢社会への適応」を特に重点的に取り組むべき施策として、様々な対策を講じ、超高齢社会に必要な仕組みや体制などの整備を進めてきており、今後においては、そうした体制などを維持・改善するために必要な取組を適切かつ着実に推進していきます。 なお、「（仮称）ミライ実現戦略2030」では、人口減少といった変化を踏まえ、次代を担う「こども」視点を重視し、高齢者に対しても、これまでの施策の推進に加え、人生100年時代に必要な取組を検討していきます。
--	------	--

2	答申内容	・「コンパクト+ネットワーク」について、広大な地域を抱え、居住地域も拡散している豊田市で中心部とそれを取り巻く拠点を作り、その拠点をネットワークで繋いでいくというのは市の特性が良く活かされており理想的な考え方です。 一方で、私たちの住む末野原地区に近接する都市拠点は上郷ですが、残念ながら暮らし機能や交通ネットワークが整っているとは言い難く、他の都市拠点との格差を感じます。そのため、上郷においても、将来にわたって安心して暮らし続けることができる「まち」となるような、具体的な施策を示していただきたいです。 例えば、この地域には大型ショッピングセンターのような人が集まる商業施設がなく、都市拠点としての魅力が乏しいと感じます。えきちか居住誘導エリアを設定するのであれば、暮らし機能や交通ネットワークの整備だけでなく、魅力ある大型商業施設の誘致等で、暮らしたいと思えるまちづくりも必要だと考えます。今住んでいる私達が地域に魅力を感じ誇りに思うようなまちづくりを進めていただくことを望みます。 ・また、まちづくりの新たな視点に、「くらし機能の連携」と「(仮) えきちか居住誘導エリアの設定」がありますが、山村地域だけでなく都市部においても深刻化している空き家や耕作放棄地の有効活用について、今ある資源の利活用という視点から項目に加えることを提案します。
	市の考え	・ご意見を踏まえ、商業施設だけではなくその他の機能の在り方も含めて、安心して快適な暮らしの実現に向けた取組について検討を進めます。 ・空き家や管理不全土地の増加は大変重要な課題であると捉えております。ご意見を参考に、既存資源の最大限の活用に関して、取組の検討を進めます。

	答申内容	まとめ 総合計画は、市民全体に関わるまちづくりの柱となる計画です。しかしながら、諮問時の説明資料だけでは真意を汲み取ることが難しかったため、総合計画を策定する際には誰がみてもわかりやすい言葉や図等で示していただきたいと思います。そして行政も市民も同じ豊田市の将来像を思い描くことができれば、より良い計画になるのではないのでしょうか。 住んでいる私達が、安心して暮らしを楽しみ、近隣市町村からも訪れていただけるような、わくわくする計画になることを期待しています。
3	市の考え	第9次豊田市総合計画は、市民の皆様と行政がともに取り組む、これからの豊田市のまちづくりの「将来像」を描き、それを実現するための方向性を明らかにするとしています。 表現については、市民の皆様が理解しやすい説明や表現を工夫していきます。計画自体についても、市民の皆様にとって分かりやすい計画とするとともに、手に取りやすい図書となるよう工夫していくほか、動画など様々な媒体を活用しながら、まちづくりの方向性を市民の皆様と共有していく考えです。